

自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける 番外

「冬至の朝 Winter solstice morning」

2020年12月21日

今日12/21は**冬至**（1年で最も昼の時間が短い日）。芦花公園（世田谷）に朝の体操に出かける時は暗く、寒い。6:00に天気情報を見ると0℃、日の出は6:47、日の入りは16:32。今日は、言わば1年間で最も暗いどん底にいる日と言える。これから段々明るく、暖くなるはずだが、実際にはこれから1ヶ月の間、日の出時刻はほとんど変わらない。気温はもっと下がっていく。そこで、「しばらく朝出は止めて、冬眠に入ります」と宣言する人もいるのも理解できる。しかし私は、暗闇にめげず朝起きし、行動し続けると迎える春が眩しく、温か感じられることをこれまで体験して来た。だから体操仲間と「上を向～いて」頑張ろうと励まし合っている。

先日、目を上げると、まだ暗い空に**明けの明星（金星）**と**月**が光っていた。その数日前の月は「**明けの三日月（28日の月）**」であった。また、日の出に最も低い角度から上がる太陽は、公園の木々の間を抜けて落ち葉の大地に光の帯を伸ばしていた。周囲が明るくなると、**紅葉が光を受けて輝き**、日々異なる形の**雲が青空にたなび**いていた。

今年12/6には、6年前に火星と木星の間に存在する小惑星の一つ**リュウグウに向けて旅立った探査機「やぶさ2」のカプセルが無事帰還**した。採取した岩・砂のサンプルを分析すると、地球生命の起源を解明できるかも知れないという明るいニュースは、専門家だけでなく皆が感動し、希望を与えてくれた。

<https://media.dglab.com/2020/12/06-afp-01-3/>

一方地上では、いま全世界がコロナウイルスの襲撃に脅かされ、奮闘している。自然の営みは、天でも空・地でも常に変化し、互いに影響を与え続け、悠々とそれぞれの営みを続けている。その壮大で厳粛な事象を見ながら日々を送るよう努めると、自然に気持ちと視野が広がり、コロナ渦への向き合い方が少し変わってくるのではないだろうか。